

第 11 回むぎのえいが部「劇場版 フランダースの犬 THE DOG OF FLANDERS」(1997 年)

<概要>

19 世紀のベルギー、フランダース地方。アントワープにある大聖堂を、一人の修道女が訪れる。彼女は、聖堂に飾られている大画家ルーベンスの「聖母被昇天」を仰ぎ見るうち、その記憶は 20 年前へとさかのぼる……。おじいさんと牛乳運びで生計を立てる少年ネロと愛犬パトラッシュは、貧しいながらも幸せに暮らしていた。ネロの夢はルーベンスのような画家になること。そんなネロのささやかだが幸せな日々は長くは続かなかった。おじいさんの死、風車小屋の放火の容疑、絵画コンクールの落選……。次々とネロの身に不幸が降りかかる。そして、クリスマスの夜。全てを失ったネロが大聖堂で見たものは、ずっと憧れていながらも決して見ることの出来なかったルーベンスの 2 枚の絵だった……。

劇場版との違い

設定はテレビ版を概ね踏襲しているが、ストーリーは「修道女に成長したアロアがアントワープの大聖堂を訪れ、ネロとの 20 年前の記憶（アロアがネロやパトラッシュと仲良くなった時点から、ネロたちの死まで）を回想する…」という回顧録の構成になっており、各エピソードも劇場版独自の翻案・演出が加えられて進行していく。ネロとパトラッシュの死の場面もテレビ版とは異なり、天使に抱えられ召天するシーンはなく、また『キリスト降架』の絵を見た後に死を決意するような表現もあり、テレビ版を原作に近付けた内容になっている。テレビ版の各所で挿入されていた（主に子供向けの）ナレーションも存在しない。成人のアロアが幻想の中でネロの声を聴き、明日への決意を新たにするというラストシーンで終了しており、エンディングテーマ（主題歌）の歌詞はアロアによるエピローグになっている。

監督 黒田昌郎

「フランダースの犬」(1975)

「母をたずねて三千里」(1976)

「ペリーヌ物語」(演出、絵コンテ) (1977)

「家族ロビンソン漂流記 ふしぎな島のフローネ」(1981)

「劇場版 フランダースの犬 THE DOG OF FLANDERS」(1997)

「いぬのえいが」…オムニバス「A Dog's Life:good side」& 「A Dog's Life:bad side」(2005)

「雲の学校」(2005)

原作：マリー・ルイズ・ド・ラ・ラメー (Marie Louise de la Ramée) ウィーダはペンネーム

「a dog of flanders」(1999) ハリウッド版「フランダースの犬」

監督：ケビン・ブローディー

ガンクラッシャー(1993)

マッド・ガールズ／一獲千金セクシー珍道中(1985)

ジャイアント・スパイダー／大襲来(1975)

「フランダースの犬」原作とアニメとの相違点。

■コゼツの旦那がネロに冷たく当たる理由

村一番の金持ちであるコゼツの旦那はネロを嫌っていました。その理由が原作とアニメでは微妙に違うようです。アニメ版のフランダースの犬では、コゼツの旦那は貧しい 10 歳の少年ネロが、8 歳の娘のアロアと仲がいの

を許せなくてネロを嫌っていたようです。

<原作>

原作では、15歳のネロが大変な美少年であったこと、そのため12歳になる娘のアロアと何か間違いがあっては困ると思って嫌っていたようです。

アニメ版では低い年齢層の視聴者をターゲットにし、ネロやアロアの年齢設定を変えてあるそうです。

■最終回

<アニメ>

アニメ版は、生きる気力を完全に失ったネロが教会に行き、いつもはカーテンで隠されている2枚のルーベンスの絵を見ることができました。

そこにパトラッシュがやって来ます。

ネロはパトラッシュに「2枚のルーベンスの絵を見られて僕は今すごく幸せだよ」、「パトラッシュ、僕は何だか疲れちゃったよ、すごく眠いんだ」といって眠ります。

そこに天使が舞い降りてくるという展開でした。

<原作>

原作では、パトラッシュが教会に駆け付けたときに雲間から差し込む光がルーベンスの絵を照らし、絵を見る事ができたネロは神に感謝の祈りを捧げます。

翌日ネロはパトラッシュを抱きしめたまま冷たくなっているところを村人に発見されます。

村人は悔いつつ、教会のはからいで少年と犬を葬るという内容だそうです。

悲しすぎる原作の内容に、アメリカでの「フランダースの犬」では、出版関係者の意向でハッピーエンドを迎えるように改変が加えられています。

このフランダースの犬は多くの国でアニメになり、実写化されています。

その都度原作とは違った展開の「フランダースの犬」が生まれているようです。

原作のフランダースの犬と、アニメのフランダースの犬、皆さんはどちらのラストが好きでしょうか。

原作とアニメを比較して見るのも面白いかもしれませんね。

ちなみに、アニメ「フランダースの犬」の最終回は、世界名作劇場枠内の最高視聴率である30.1%を記録したそうです。

<日本語版「フランダースの犬」>

日本語版は1908年（明治41年）に初めて『フランダースの犬』（日高善一 訳）として内外出版協会から出版された。西洋人の固有名詞が受容されにくいと考えられたためか、ネロは清（きよし）、パトラッシュは斑（ぶち）、アロアは綾子（あやこ）、ステファン・キースリンガーは木蔦捨次郎（きつた・すてじろう）などと訳された。さらに昭和初期には、1929年（昭和4年）の『黒馬物語・フランダースの犬』（興文社、菊池寛 訳）、1931年（昭和6年）の『フランダースの犬』（玉川学園出版部、関猛 訳）など他の訳者によって出版された。

<ピーテル・パウル・ルーベンス>（オランダ語:1577年6月28日-1640年5月30日）

バロック期のフランドルの画家、外交官。祭壇画、肖像画、風景画、神話画や寓意画も含む歴史画など、様々なジャンルの絵画作品を残した。ルーベンスはアントウェルペンで大規模な工房を経営し、生み出された作品はヨーロッパ中の貴族階級や収集家間でも高く評価されていた。またルーベンスは画家としてだけでなく、古典的知識を持つ人文主義学者、美術品収集家でもあり、さらに七ヶ国語を話し、外交官としても活躍してスペイン王フェリペ4世とイングランド王チャールズ1世からナイト爵位を受けている。

「フランダースの犬」の最終回でネロとパトラッシュが力尽きるのは、ルーベンスの「キリストの降架」の前である。